

# 令和5事業年度病床転換助成事業特別会計

## 事務費勘定

財 産 目 録

貸 借 対 照 表

損 益 計 算 書

キャッシュ・フロー計算書

令和5事業年度病床転換助成事業特別会計  
事務費勘定財産目録

(令和6年3月31日現在)

資 産 の 部			
区 分	内 訳		金 額
	摘 要	金 額	
		千円	千円
<b>流 動 資 産</b>			36,822
現金及び預金			36,173
	普通預金	36,173	
未収入金			648
	消費税等還付金	648	
<b>固 定 資 産</b>			323
有形固定資産			74
工具器具備品			741
減価償却累計額			△ 666
投資その他の資産			249
前払年金費用			249
	資 産 合 計		37,145

負債の部			
区分	内 訳		金額
	摘 要	金額	
流動負債		千円	千円
未払金			2,218
固定負債			13,222
退職給付引当金			13,222
負債合計			15,440
差引正味財産			21,705

令和5事業年度病床転換助成事業特別会計  
事務費勘定貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

資 産 の 部			負 債 ・ 資 本 の 部		
区 分	注記 番号	金 額	区 分	注記 番号	金 額
(資産の部)		千円	(負債の部)		千円
I 流動資産			I 流動負債		
1 現金及び預金		36,173	未払金		2,218
2 未収入金		648	流動負債合計		2,218
流動資産合計		36,822	II 固定負債		
II 固定資産			退職給付引当金		13,222
1 有形固定資産			固定負債合計		13,222
工具器具備品	741		負債合計		15,440
減価償却累計額	△ 666	74	(資本の部)		
有形固定資産合計		74	利益剰余金		
2 投資その他の資産			1 別途積立金		24,610
前払年金費用		249	2 当期末処理損失		2,905
投資その他の資産合計		249	利益剰余金合計		21,705
固定資産合計		323	資本合計		21,705
資産合計		37,145	負債・資本合計		37,145

令和5事業年度病床転換助成事業特別会計  
事務費勘定損益計算書

(自 令和5年4月1日)  
(至 令和6年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額	
		千円	千円
〔経常損益の部〕			
( 業 務 損 益 の 部 )			
I 業 務 収 益			
事業費勘定からの受入		10,422	10,422
II 業 務 費 用			
1 給 与 手 当		3,507	
2 退 職 給 付 費 用		431	
3 委 託 費		7,738	
4 減 価 償 却 費		122	
5 その他の業務費用		1,528	13,328
業 務 損 失			2,906
( 業 務 外 損 益 の 部 )			
業 務 外 収 益			
受 取 利 息		0	0
経 常 損 失			2,905
当 期 純 損 失			2,905
当 期 未 処 理 損 失			2,905

令和5事業年度病床転換助成事業特別会計  
事務費勘定キャッシュ・フロー計算書

(自 令和5年4月1日)  
(至 令和6年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー		千円
事業費勘定からの受入収入		10,422
人件費の支出		△ 2,727
その他の業務支出		△ 10,666
小 計		△ 2,971
利息の受取額		0
業務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,971
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資活動によるキャッシュ・フロー		—
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー		—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		—
V 現金及び現金同等物の増減額		△ 2,971
VI 現金及び現金同等物の期首残高		39,144
VII 現金及び現金同等物の期末残高	※1	36,173

令和5事業年度病床転換助成事業特別会計  
事務費勘定損失処理計算書

(令和6年6月24日)

区 分	金 額
I 当期未処理損失	2,905,748
II 損失処理額	
任意積立金取崩額	
別途積立金取崩額	2,905,748
III 次期繰越損失	0

## 重要な会計方針

期 別	当会計期間
項 目	（自 令和5年4月 1日） （至 令和6年3月31日）
1. 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産	<p>定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。</p> <p>工具器具備品 5年</p>
2. 引当金の計上基準 退職給付引当金	<p>職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>ア 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>イ 過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法</p> <p>過去勤務費用については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、発生時から費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌期から費用処理しております。</p>
3. キャッシュ・フロー計算書 における資金の範囲	<p>手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。</p>
4. その他財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理	<p>消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>

## 注記事項

(キャッシュ・フロー計算書関係)

当会計期間末 (令和6年3月31日現在)	
※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係	
現金及び預金	36,173 千円
現金及び現金同等物	36,173

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当支払基金は、職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付型制度を採用しております。

企業年金基金制度（積立型制度であります。）では、給与と加入期間に基づいた年金又は一時金を支給します。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	△ 23,527	千円
勤務費用	—	
利息費用	△ 117	
数理計算上の差異の当期発生額	82	
退職給付の支払額	119	
期末における退職給付債務	△ 23,443	

3. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	8,850	千円
期待運用収益	247	
事業主からの拠出額	—	
数理計算上の差異の当期発生額	899	
退職給付の支払額	—	
期末における年金資産	9,997	

4. 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

イ. 積立型制度の退職給付債務	△ 9,618	千円
ロ. 年金資産	9,997	
ハ. 非積立型制度の退職給付債務	△ 13,824	
ニ. 未積立退職給付債務（イ＋ロ＋ハ）	△ 13,446	
ホ. 未認識過去勤務費用	△ 515	
ヘ. 未認識数理計算上の差異	989	
ト. 貸借対照表計上純額（ニ＋ホ＋ヘ）	△ 12,972	
チ. 前払年金費用	249	
リ. 退職給付引当金（トーチ）	△ 13,222	

#### 5. 退職給付に関連する損益

勤務費用	—	千円
利息費用	117	
期待運用収益	△ 247	
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 171	
数理計算上の差異の当期の費用処理額	733	
退職給付費用	431	

(注) 企業年金基金に対する職員拠出額を控除しております。

#### 6. 年金資産の主な内訳

債 券	52.5%
株 式	36.1%
その他	11.4%
合 計	100.0%

#### 7. 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

#### 8. 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎	
割引率	0.5%
長期期待運用収益率	2.8%